

サステナビリティレポート 2022

UDトラックス株式会社



UD TRUCKS



UDトラックスの今

トラックメーカーとして、80年を超える歴史を刻んできたUDトラックス。

時代が求める革新的な製品やサービスの開発・提供を通じて、トラック物流の現場を支え、豊かな社会の実現に取り組んでいます。

販売・サービスを展開する国と地域

約60

日本で、世界で、広範なネットワークを通じたきめ細かなサービスを展開。世界で約8万台のトラックがテレマティクスでつながるなど、お客さまのビジネスを24時間365日サポートしています。

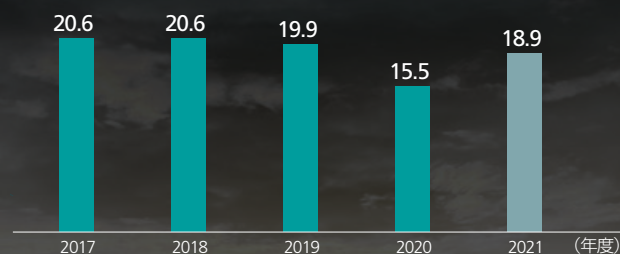


2021年度の世界販売台数

18,851台

日本を中心に、アジア、アフリカ、オセアニアなどでUDトラックスの車両を販売。それぞれの市場のインフラや貨物特性に応じた物流ニーズに幅広く対応しています。

(単位:千台)



社歴

87年

1935年、ディーゼルエンジンの製造を目的に創立。社会のニーズに応え、新たな高みにチャレンジし続ける姿勢はUDトラックスのDNAとなっています。

従業員数

8,122名

国内 6,146名

海外 1,976名

人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境が企業の持続性につながるという方針のもと、全世界では41カ国籍、日本では31カ国籍の従業員が働いています。(2022年4月1日現在)

国内サービスネットワーク

165カ所

(独立資本販売会社を含む)

UD純正部品と純正整備により、お客さまの車両をベストなコンディションに保ち、稼働率の向上を実現しています。



小型車「カゼット」

中型車「コンドル」

大型車「クオン」

大型車「クエスター」

中型車「クローナー」

小型車「クрузー」

先進国市場向け

新興国市場向け

目次／編集方針

UDトラックスの今	1
トップメッセージ	3
私たちのパーパス	4
サステナビリティ活動報告	
●よりスマートな物流のために	7
●よりクリーンな地球のために	16
●より良い職場・地域のために	25
●企業のより持続可能な成長のために	31
UDトラックスについて	38

編集方針

UDトラックスは、社会課題の解決に貢献する価値創造や、環境、社会、ガバナンスの取り組みをステークホルダーの皆さまにご理解いただくために本レポートを発行しています。2022年版のレポートでは、当社のパーパスを全体構成の基軸に置き、事業の成長と社会への貢献の両立に向けた具体的な取り組みを紹介しています。

報告対象範囲

UDトラックス株式会社

報告対象期間

2021年度(2021年1月1日～2021年12月31日)

一部、それ以前の経緯やデータ、2022年度の活動、将来の活動予定も報告

発行年月

2022年12月



トップメッセージ

国内外の多様な従業員とともに 持続可能な物流の実現に貢献します。

UDトラックスは「Better Life」というパーパス（存在意義）のもと、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献し、ステークホルダーの皆さまとともに成長していくことをめざしています。「顧客満足度の向上」「地球温暖化防止」「働きがいのある職場づくり・地域貢献」「企業としての持続的な成長」を重点領域として取り組みを進め、「日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる」という目標を掲げています。

社会は今、さまざまな課題に直面しています。当社が製品・サービスを提供するトラック物流業界では、オンラインショッピングの拡大などで需要が高まる一方、ドライバー不足がますます深刻化し、輸送効率のさらなる向上が求められています。また、資源の枯渇や気候変動、人権や人々の生活格差といった社会課題は、バリューチェーン全体での対策が必要です。そして、これらの課題やリスクに積極的に向き合うことが、SDGsの達成とより豊かな社会の実現につながります。

私たちはこうした認識のもとに、例えば顧客満足の領域においては、ドライバーの運転環境や車両の稼働率の向上に貢献し、環境性能に優れた製品・技術の開発に注力しています。フラッグシップ大型トラック「クオン」に搭載したUDアクティブステアリングはドライバーの疲労を軽減し、GHエンジンと電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI（エスコット・シックス）」によって燃費を向上させています。新興国では、欧州の自動車排出ガス規制「ユーロ5」に対応した車両を展開しています。また地球温暖化防止領域において、当社はいすゞグループの一員として、「いすゞ環境長期ビジョン2050」に沿って、2050年までにCO₂排出ゼロの達成をめざしています。

これらの遂行のためには、世界中の従業員の多様な視点が必要です。当社はダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを推進することで、多様な従業員が認識を合わせて、もてる能力を最大限に発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。

これまで、そしてこれからも、私たちは、お客さま、社会のために力を尽くしてまいります。

当社へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

丸山 浩二

私たちのパーパス

パーパス

Better Life

時代が求めるトラックと
サービスを提供する企業として
UDトラックスは持続可能な
物流ソリューションを通じて人や地球に
よりよい暮らし「Better Life」を提供します

2025年になりたい姿

日本の商用車メーカーで
サステナビリティリーダーになる

「サステナビリティリーダー」
になるための4つの柱

よりスマートな
物流のために
顧客満足度の向上

よりクリーンな
地球のために
地球温暖化防止に向けて

より良い職場・
地域のために
働きがいのある職場・地域貢献

企業の
より持続可能な
成長のために

私たちUDトラックスは商用車メーカーとして、80年以上にわたり物流業界と共に歩んできました。
今、世界的な気候変動や新型コロナウイルスの影響で、社会のあり方や人々の価値観が大きく変化しています。
日本のトラック物流も、電子商取引の拡大や少子高齢化を背景とした人手不足の深刻化など、かつてない厳しい状況に直面しています。
目まぐるしく変化する時代において、UDトラックスがこれからもステークホルダーの皆さまと共に成長していくためには、
社会から必要とされる存在であり続けることが重要です。
こうした認識のもとに、私たちは、UDトラックスのパーパス(存在意義)を「Better Life」という言葉で表現しました。
「Better Life」は、私たちの事業活動すべての指針であると共に、すべてのステークホルダーに貢献していくという約束です。
UDトラックスは、このパーパスを念頭に、2025年には、持続可能な事業と社会を両立する企業——
「日本の商用車メーカーでサステナビリティリーダーになる」ことをめざします。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

UDトラックスは、「Better Life」の取り組みを通じて、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に貢献します。

ステークホルダーとの対話を通じて

なりたい姿の実現には、お客さまやビジネスパートナー、従業員をはじめ、すべてのステークホルダーとの密なコミュニケーションが不可欠です。UDトラックスは、さまざまな機会を通じて各ステークホルダーとの対話に努め、その声を経営や事業活動、ESG(環境・社会・ガバナンス)各側面の活動に反映しています。



私たちのパーパス

「サステナビリティリーダー」になるための4つの柱

よりスマートな物流のために 顧客満足度の向上

物流業界は今、交通安全の確保や交通渋滞・環境問題の解決に加え、物流需要の高まりと競争激化によるコスト減・効率向上に対するプレッシャー、規制強化、ドライバー不足などさまざまな課題に直面しています。

こうした課題に応えるために、UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、電動化、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジスティクス—の実現をめざしています。 [▶ P7へ](#)



よりクリーンな地球のために 地球温暖化防止に向けて

気候変動をはじめとした地球環境問題は、世界にとって今や喫緊の課題となっています。物流の根幹を担う企業として、UDトラックスはこうした課題に真正面から向き合い、未来に向けた解を提案すべく行動を開始しています。

UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R(Reduction, Reuse, Recycle)の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。 [▶ P16へ](#)



私たちのパーパス

より良い職場・地域のために 働きがいのある職場・地域貢献

持続可能な物流・社会を実現するためには、私たちUDトラックスの従業員一人ひとりが心身ともに健康な状態で日々の業務を遂行し、お客様や地域社会に貢献すること、自ら成長しながら会社の成長に貢献することを喜びとする企業文化が必要です。

そのためUDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々人の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。

[▶P25へ](#)



企業のより持続可能な成長のために

どんなに好ましい社会的インパクトをもたらす企業であっても、企業そのものが持続可能に成長していかなくは意味がありません。

UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネスプロセスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた利益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。

[▶P31へ](#)



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

よりスマートな物流のために 顧客満足度の向上

UDトラックスはドライバーの運転環境の向上に寄与する商品や環境負荷を低減する商品を提供すると共に、デジタルを駆使して、車両の稼働を支援しています。さらに、ドライバーや物流会社と連携しながら物流のバリューチェーンを進化させ、将来の課題解決にも貢献するトータルソリューションを提供し、持続可能な物流を実現していきます。

そのために、UDトラックスは、コネクティビティ、電動化、自動運転などの次世代技術を開発し、物流の効率化—スマートロジスティクス—の実現をめざしています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

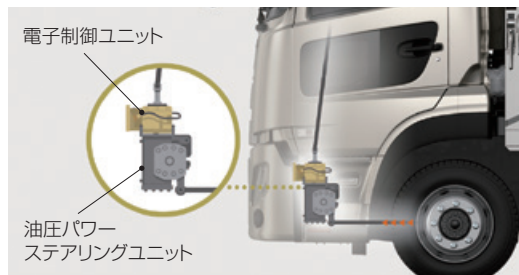
サステナビリティ活動報告

ドライバーの運転環境の向上

「UDアクティブステアリング」機能の開発

長時間労働や身体的な負担は深刻化するドライバー不足の主な要因の一つであり、物流業界にとって1日の大半をトラックのなかで過ごすドライバーの運転環境の改善が喫緊の課題となっています。

こうしたなか、UDトラックスは、ドライバーの疲労軽減と安全に寄与する「UDアクティブステアリング」を開発し、大型トラック「クオン」に搭載しています。UDアクティブステアリングは、従来の油圧式ステアリングギア上部に新たに搭載した電気モーターが運転を支援する機能です。複数のセンサーを設置することで、1秒間に2,000回の頻度で運転環境を感知。電気モーターに付随する電子制御ユニット(ECU)が走行方向とドライバーの意図を判断して、運転操作を積極的にサポートします。このシステム制御によってステアリングの重さに適切なトルクを付加するため、速度や積み荷、路面状況、横風などに左右されない安定したステアリング感覚を実現します。



UDアクティブステアリングの5つの特長

- **低速走行時の軽いステアリング**
重量物輸送時でも軽い力で操舵でき、疲労を大きく軽減。
- **高速走行時の直進安定性**
スピードに応じてステアリングを適度な重さになるよう制御することで、直進走行時にドライバーの緊張感を軽減。
- **不整路走行時の路面状況の影響軽減**
路面の凹凸から受ける影響を自動補正し、振動や意図しないステアリングの動きを軽減。
- **横風発生時の走行補正**
横風の影響によるタイヤの微細な動きを素早く感知し、自動補正で直進走行をサポート。
- **後退・右左折時の自然なハンドル戻り**
後退時や交差点での旋回時にステアリングを自動でニュートラル位置に復元。



UDアクティブステアリング発表会をオンラインで開催

2021年7月、輸送業務の環境改善やドライバー不足の解決の一助としてUDアクティブステアリングを役立てていただくことを目的に、上尾工場内に併設するテストコースで発表会を開催しました。

コロナ禍のためオンラインでの開催となったものの、試乗デモンストレーションでは、スラローム走行、不整路走行、バックによる車庫入れといった状況を設定。乗車したドライバーの感想をリアルな言葉で紹介するなど、より臨場感をもって視聴者に伝えるように工夫しました。

また、発表会以降も、多くのお客さまにUDアクティブステアリングを体感していただけるよう、デモトラックを活用して試乗の機会を提供しています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

お客様の声

UDアクティブステアリングのおかげで運転が楽になり、安全確認にもより注意を向けられるようになりました。

株式会社コトー

池田 仁 氏（整備管理者）

当社は、大・中型貨物自動車64台を保有し、主に自動車部品や設備機器を全国へ配送しています。

私の仕事は、主に車両の点検、手配などです。実際に運行するドライバーから話を聞きながら、新規導入する車両の選定などに反映させています。例えば古い道路で轍にハンドルをとられてヒヤッとしたとか、雪の時期にハンドルを



池田 仁 氏

とられそうになったとか。UDアクティブステアリング搭載車の導入を決めたのは、さまざまな面を総合的に判断してのことでした。

試乗会でUDアクティブステアリングが搭載されたトラックを初めて運転した時、凸凹道を走行してみてもステアリングのぶれが全くなかったのに驚きました。また、一般的な大型4軸車と比べると「クオン」のステアリングは軽いですね。

今回、原田がUDアクティブステアリング車第1号なのでいろいろな意見を聞きながら、さらなる導入を考えていきたいと思います。ドライバーには、なるべくストレスのない環境で長く勤めてもらえるようにと考えています。

原田 博一 氏（ドライバー）

大型トラックで長距離を運転していますが、道路状況は刻々と変化します。同じ道であっても、季節や気候などによって異なりますので、例えば冬、雪道を走る時はあまりスピードを出さないとか、なるべくブレーキを踏まないとか、運転にとっても気を遣います。

UDアクティブステアリングが搭載された「クオン」は、ステアリングが軽いばかりではなくて高速走行時にも安定し

ています。これまでのパワーステアリングはステアリングが軽くなる分、高速では気をつけなければなりませんでしたが、しかし、この「クオン」は、高速になるほど重たくなり、カーブの時もどっしりしていますので、リラックスして運転することができますね。

また、市街地の一般道で交差点を曲がる時がすごく楽になりました。とくに気を遣うのは左折時です。大型だと一杯いっぱいのところも多いので、ステアリングを切るのが少し早くても、逆に遅くても曲がれないことがある。それがずっと曲がってくれるようになりました。その分、自転車やオートバイがないか安全確認に注意を向けられます。

もう1点、横風の強いルートもUDアクティブステアリングなら安心です。もちろん、ドライバーとして機械だけに任せているわけにはいきませんが、予測不能な横風を感知して運転をサポートしてくれるトラックは、まさに頼れる相棒です。

昔みたいに、高速では力を入れてステアリングを握っていなければならない、ということではなく、普通に手を添えている感じで安定しているので、楽になりましたね。以前より疲れないので、マッサージに行く回数が減りました。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

(株)神戸製鋼所との レベル4*自動運転の実証実験

物流業界の労働力不足が顕著になるなか、ドライバー不足による製造現場の操業への影響も懸念されています。UDトラックは、社会や物流業界の課題解決に貢献するため、2030年までの次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin(風神雷神)——ビジョン2030」を策定し、要となる自動化と電動化の分野に主眼を置き、大型トラックの特定用途における自動運転の実現や、電動駆動による新たなソリューションの提供に取り組んでいます。

その一環として、2019年に北海道において日本通運(株)、ホクレン農業協同組合連合会と共同で、レベル4技術を活用した自動運転トラックの実証実験を行いました。さらに、2022年下半年をめぐり、(株)神戸製鋼所とのパートナーシップのもと、同社加古川製鉄所において自動運転実証実験を計画しています。製鉄所の高炉操業には24時間365日の稼働を前提とした安定した輸送が不可欠です。この取り組みでは、同製鉄所内の運搬コースの一部に実験ルートを設定。大型トラック「クオン」をベースとしたレベル4限定領域自動運転対応車両による自動運転の走行実験を行います。

*特定条件下における完全自動運転。

大型トラック「クオン」の安全性能の向上

大型トラック「クオン」には、従来からLDP(車線逸脱抑制機能)やLDWS(車線逸脱警報装置)、トラフィックアイブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)、ドライバーアラートサポート(ふらつき注意喚起装置)などの先進安全技術を搭載し、ドライバーの安全運転のサポートだけでなく、周囲の道路利用者の安全性も同時に確保すべく取り組んできました。また2021年には、事故原因の一つであるドライバーの疲労軽減に寄与する電子制御操舵システム「UDアクティブステアリング」による運転支援機能を追加しました。

さらに2022年型モデルには、左折時や車線変更時の安全性を向上させるスマートBSIS(側方衝突警報装置)とスマートLCS(レーンチェンジサポート)を搭載しました。スマートBSISは左側方の自転車を、スマートLCSは車線変更時に左側方の車両を検知。助手席のピラーに搭載したインジケータでドライバーに通知します。衝突の可能性がある場合は、インジケータが点滅し、ポップアップ表示とブザー音で警報を発します。

2019年11月に施行された国際基準では、車両総重量が8トン以上の貨物自動車について、BSISの搭載が義務づけられており、継続生産車には2024年5月からの適用が定められています。UDトラックは業界で最も早く対応し、BSIS搭載モデルの販売を始めました。

「ホワイト物流」推進運動への参加

国土交通省では、トラック輸送における生産性の向上、物流の効率化と働きやすい労働環境の実現をめざして、2019年3月に「ホワイト物流」推進運動をスタートしました。

UDトラックはその趣旨に賛同し、自主行動宣言を行いました。当社は、物流に不可欠なトラックの製造企業であるだけでなく、物流サービスの利用者でもあることを自覚し、これからも持続可能な物流の実現に取り組んでいきます。

[Web](#)

「ホワイト物流」推進運動ポータルサイト

<https://white-logistics-movement.jp/>

[Web](#)

UDトラック自主行動宣言

<https://white-logistics-movement.jp/wp-content/themes/white-logistics/docs/declarations/O1771.pdf>

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

環境負荷低減

大型トラック「クオン」の環境性能の強化

UDトラックスは、2004年に発売した初期型「クオン」に、トラックとしては世界初となる排出ガス浄化装置「尿素SCRシステム」を搭載しました。その後も、省燃費運転をサポートする12段電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI(エスコット・シックス)」、道路勾配を記憶して先読み制御する「フォアトラック」、省燃費運転をガイドする「燃費コーチ」など多くの先進技術を採用し、燃費・環境性能の向上に取り組んできました。

2022年7月に発売した11リットルエンジン搭載モデルはさらに進化し、国土交通省が定める「平成27年度重量車燃費基準」を+10%達成するとともに、2025年度を目標年度とする重量車の新しい燃費基準を満たしています。

2022年型11リットルエンジン搭載モデルに採用した主な環境負荷低減技術

●GH11エンジン

ユニットインジェクターとコモンレールシステム、双方の特長を活かした新燃料噴射システムや燃焼室形状の変更などにより、平成28年排出ガス規制に適合するとともに、全車平成27年度重量車燃費基準+10%を達成(ESCOT-VI搭載車)。低回転域から幅広い回転域で力強いトルクを発生させ、ゆとりある走りを実現しています。

●ECO+モード

省燃費運転モード「ECO」「ECO OFF」に「ECO+」を追加。エンジンをかけた状態ではデフォルトとして「ECO+」に設定しており、走行中必要なパワーに応じて「ECO+」「ECO」「ECO OFF」を任意に変更することができます。

●エンジンオイルとタイヤ

さらなる省燃費性と長寿命化を両立する低粘度のエンジンオイルや、低転がり抵抗係数タイヤを採用しています。

欧州の自動車排出ガス規制

「ユーロ5」に対応した新型モデルの発売

UDトラックスは、2021年9月にEUが定める同圏内統一の自動車排出ガス規制であるユーロ5に対応した大型トラック「クエスター」と中型トラック「クローナー」の新型モデルを海外の主要市場で発売しました。これらのモデルは、車両の稼働率や燃費効率のさらなる向上、総保有コ

ストの最適化、そして環境負荷の低減を実現しています。

新興国では、工業化と経済成長に伴い深刻化する大気環境の悪化や、世界的に注目が高まる地球温暖化問題に対応するため、より厳しい排出ガス規制の導入を急いでいます。ユーロ5モデルは、各国・地域で厳格化される各種政策を念頭に、制度リスクの低減と環境課題への対応を両立させました。

ユーロ5基準では、これまでのユーロ4基準比で43%のNOx排出量の削減が求められています。ユーロ5対応モデルは、当社が世界で初めて導入し高い信頼を得ている尿素SCRシステムを搭載することで同規制をクリアするとともに、燃費性能を大幅に向上させています。また、リアルタイムの「燃費コーチ」機能を加えたインストルメントパネルを採用し、ドライバーが燃費改善につながる最適な運転方法を確認できるようにしています。



写真左：クローナー、右：クエスター

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

稼働率の向上

車両テレマティクスデータの活用による 車両停止時間の短縮

日本の物流において、トラックによる輸送はトーンベースで90%以上を占めています。お客さまのトラックのコンディションをより良い状態に保ち、安定した稼働を支えることは、トラックメーカーとして、お客さまへの責任であると同時に社会への責任でもあります。

UDトラックは、独自のテレマティクスでお客さまの安定稼働をサポートしています。これは、車両に搭載しているテレマティクスシステムを通じて自動的に発信されるエンジンなどの車両コンディションや、燃費、位置といった情報を、UDトラックがリアルタイムで集約・分析して、「遠隔車両診断」による「安心稼働サポート」として提供するものです。万一のトラブル発生時にもいち早く車両の状態を把握して最寄りのディーラーへ案内し、車両停止時間を大幅に短縮します。また、「省燃費レポート」により省燃費運転も支援しています。

さらに、車両から収集した各種データを活用して「予防整備」の強化にも注力しています。この取り組みは、将来の車両不調につながる予兆をモニタリングし、不調が発生する前に予防的に整備するもので、車両の突発的な不調を低減することで稼働時間の最大化を図っています。

UDロードサポートによる迅速な対応

UDロードサポートは、UDトラックが運営するコールセンターです。専任のコーディネーターが窓口となり、24時間365日、ドライバーからのお問い合わせに直接対応しています。走行中の車両に不具合や故障が発生した際には、テレマティクスを介して即時に送信される情報をもとに「遠隔車両診断」を実施。メカニックと共有することで、トラブルの解決までワンストップでお客さまを効率的にサポートしています。

また、出張修理が必要な場合は、最寄りのディーラーからメカニックがスピーディーに駆けつけて復旧にあたります。コールセンタースタッフは、ドライバーのもとにメカニックを派遣するとともに、ドライバーに安心していただけるようメカニックの到着予定時刻など必要な情報を随時連絡し、予期せぬ車両トラブルに迅速に対応しています。

車両の寒地走行試験を実施

経済活動に欠かせない物流を担うトラックは、どのような環境下でも高い耐久性能と安定した稼働が求められます。UDトラックは、気象や自然環境、インフラの整備状況にかかわらず、常に優れた走行性能と耐久性を発揮する車両の提供をめざし、1985年から毎年1月～3月にかけて、北海道北見市の協力を得て車両の寒地走行試験を実施しています。

寒地走行試験とは、零下20℃を下回ることも珍しくない極寒の使用環境下でトラックの走行・耐久性能を確認し、安全性や稼働率の向上につなげるものです。具体的には、(1)寒冷地での走行・発進性能、スラローム(旋回)性能、安全性能などの評価、(2)氷点下で放水・凍結させての車両の状態確認、(3)試験方法確立のための調査、(4)滑りやすい路面での操縦安定性能、発進性能、着雪・凍結時の暖房性能などの評価、(5)低温時のエンジン性能、排ガス浄化装置システムの評価といった多岐にわたる項目を行っています。こうした試験を継続的に実施することで、お客さまに安心して使用していただける信頼性の高いトラック開発に取り組んでいます。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

品質

ISO9001 認証の取得

UDトラックスでは、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を導入しています。生産部門では2002年度に、開発部門では2016年度にISO9001を取得し、2018年度にはISO9001:2015年改訂規格への移行を完了しています。

また、タイのバンコク工場、南アフリカのプレトリア工場などでも取得しており、包括的にPDCAサイクルを回していくことで、継続的な品質の向上につなげています。



品質マネジメントシステムに対する 内部監査／外部審査

品質マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、マネジメントシステムの運用状況、社内基準、関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また同様に、外部機関による審査も毎年実施し、ISOの認証を継続しています。

品質問題発生時の迅速な対応

品質問題の発生時にお客さまへの影響を最小限にするために、開発、生産、アフターマーケットの部門から構成される「クオリティ・アクション・グループ」を設置しています。同グループには、本社で対策を講じるチーム、ディーラー拠点やお客さま先など現場にも出向く技術専門チーム、支社に常駐して現地で直接対応にあたるチームを設けており、各チームが機能的に連携することで、問題の特定から対策の実行までを迅速かつ正確に行っています。

こうした部門横断の取り組みによって、関係者全員で品質情報をタイムリーに共有するとともに、スムーズな対応につなげ、お客さま満足度の向上に努めています。

なお2022年には、これまで各部門に分散していた品質管理機能を一元管理する品質部門を設立し、より広範囲かつ精度の高いモニタリングと品質改善活動に取り組んでいます。

製品開発での取り組み

開発部門では、UDトラックス独自の品質評価基準を設けています。開発段階ごとにチェックポイントを設定し、性能、機能、耐久信頼性など各品質項目の目標達成状況を確認しています。このプロセスの構築により、品質の向上と同時に開発期間の短縮も実現しています。

また、品質管理においては効率的かつ迅速な情報収集がますます重要になっていることから、不具合が発生した車両の整備や修理などの情報収集にウェアラブルカメラなどのデジタルツールを活用しています。さらにBIツールの導入により分析のプロセスのデジタル化を進め、より効率的に品質問題の兆候を把握できるようにしています。

生産での取り組み

生産部門では、UDトラックス独自の管理手法に従って部品のデリバリーや生産過程での製造・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質レベルを維持しています。より一層の改善を求めたこの品質管理手法は、国内外を問わずすべてのUDトラックスの工場で採用されています。

近年は、従来、人が巡回して行っていた設備の検査にデジタルツールを導入しています。デジタルツールでリアルタイムにモニタリングし、事前に故障や不具合の発生リスクを評価・分析。必要に応じて予防的に修理・整備を実施しています。また、こうした予防的な品質管理の一環として、使用する部品のトレーサビリティ（製造方法や輸送方法など）も強化しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

アフターサービスでの取り組み

ディーラー拠点で車両整備やパーツ手配、フロント業務などのアフターサービスに携わるスタッフのスキルアップを柱にサービス品質の確保・向上に努めています。

日本国内では毎年、全国のアフターサービススタッフが最新の製品品質と技術サポート案件に関わる情報を共有できるよう「アップタイム・カンファレンス」を開催しています。

このイベントにはアフターサービスの最前線で働くスタッフだけでなく、本社から開発部門、生産部門、調達部門、物流部門のメンバーも参加し、さまざまな角度から情報の共有と意見交換を行っています。

また、世界中のアフターサービススタッフの技能向上を目的とした技能競技会「UDトラックス現場チャレンジ」を2年ごとに実施しています。約半年をかけて行われるこの競技会では、実際のサービス現場で起こり得る実践的な課題が学科と実技で与えられ、参加者は課題への取り組みを通じて新たな知識や技術を習得しています。2022年は、日本を含め世界中から2,161名が参加しました。

リコール&キャンペーン

お客さまの安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1~12月)

	2019年		2020年		2021年	
	UD トラックス	ボルボ・ トラック	UD トラックス	ボルボ・ トラック	UD トラックス	ボルボ・ トラック
リコール	10件	5件	8件	1件	17件	1件
改善対策	0件	0件	0件	0件	0件	0件
サービス キャンペーン	3件	2件	0件	1件	3件	3件

お客さまサポート

女性ドライバー向け試乗会および意見交換会

UDトラックスは、物流業界のドライバー不足が深刻化するなか、現場で活躍する女性ドライバーの声を直接お聞きすることを目的に「女性ドライバー向け試乗会および意見交換会」を2017年から実施しています。

コロナ禍により約3年ぶりの開催となった2022年3月の試乗会・意見交換会には、全国の女性ドライバーが参加。大型トラック「クオン」の試乗では、ドライバーの疲労軽減と安全に寄与する「UDアクティブステアリング」や、電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI（エスコット・シックス）」などに高い関心が寄せられました。また、意見交換の場では当社の女性エンジニアも参加し、物流業界における人材の多様性や働き方、今後の商品開発などをテーマに活発な議論が交わされました。当社は、先進技術の開発を通じて女性や初心者でも安全で簡単に運転できるトラックを提供することで、ドライバー不足という物流業界の課題の解決、さらにはジェンダーや年齢にかかわらず働きやすい環境づくりに貢献していきます。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

エコドライブ講習会／安全運転講習会

2007年度からトラックドライバーを対象に「エコドライブ講習会」と「安全運転講習会」を開催しています。

「エコドライブ講習会」では、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。とくに、テレマティクスを活用した講習会では、ギアチェンジや車速などの項目ごとに運転の評価ができるため、客観的に運転の癖を把握し、効果的な対策ができること好評をいただいています。

また、「安全運転講習会」ではお客様の要望に応じて、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」「事故事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などのなかからテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラムを提供しています。実際の事故車両に取り付けられているドライブレコーダーで撮影された映像を使って事故を疑似体験していただくなど、お客様が事故を自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

実施回数・参加者数（各年1～12月）

	2019年		2020年		2021年	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
エコドライブ講習会	全国70カ所	1,119名	10回	288名	29回	464名
安全運転講習会	146回	4,261名	46回	2,053名	119回	7,012名

なお2020年以降のコロナ禍においては、グループ討議や集団演習を控えたり、オンラインによる遠隔講習会形式を取り入れたりするなど、感染防止策を講じながら実施しています。

お客さま相談室

お客さまからのお問い合わせやご意見、ご要望にフリーコールで対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、スムーズな対応に努めています。また、迅速かつ適切に対応するために、社内フローなどを適宜見直しています。2021年1月～12月までの総受付件数は3,215件（2020年同期：3,917件）でした。

独立系販売会社とのパートナーシップ

研修などを通じたスタッフへのサポート

UDトラックは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客さまに提供しています。各社の地域に根ざした事業活動を尊重しながら、お客さま満足度の向上を共通の目標として、直系ディーラーと同じ研修やイベントを開催し、より高い技術や最新知識の習得を支援しています。

アフターサービスに関わるスタッフを対象とした研修会「アップタイム・カンファレンス」や技能競技会「UDトラック現場チャレンジに」（P14参照）には独立系ディーラーからも毎回多くのスタッフが参加しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

よりクリーンな地球のために 地球温暖化防止に向けて

UDトラックスは事業活動のすべてにおいて、脱炭素化、廃棄物ゼロをめざします。

再生可能エネルギーを積極的に活用すると共に、自社の商品や事業活動だけでなくサプライヤーとの連携を通じてCO₂排出量の削減を推進し、バリューチェーン全体での環境負荷の低減に取り組みます。また、3R(Reduction、Reuse、Recycle)の考えをもとにした施策を導入し、廃棄物を削減します。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

脱炭素化

事業活動に伴うCO₂排出量の削減

UDトラックスは、脱炭素化への取り組みをパーパスに基づく重要課題の一つに掲げ、事業活動全体を通じてCO₂排出量の削減を積極的に推進しています。とくに、エネルギー使用量の大きい工場においては、「エネルギー使用量を減らすことでCO₂を削減する」という考え方を基本に、生産拠点・施設の集約や生産工程の見直しといった効率化を進め成果を上げてきました。

この取り組みを加速するため、上尾工場では、グリーン電力の購入、照明のLED化や人感センサーの設置による自動的消灯の徹底、フォークリフトなどの作業車両の電動化と台数の削減、設備の計画的な更新などを進めています。また、海外の工場でもタイのバンコク工場に太陽光発電パネルを設置しました。

今後は、いすゞグループの一員として「いすゞ環境長期ビジョン2050」に基づき、2050年までに事業活動から直接排出するCO₂ゼロの実現をめざします。

グリーン電力の購入

上尾工場では、2019年5月より再生可能エネルギー由来の電力を一部使用しています。2020年度にはコジェネレーション設備（発電機）の使用を停止し、再生可能エネルギー由来の電力をより積極的に活用することとしたため、通常電力を購入した場合と比べ1,215トンのCO₂排

出を削減しました。さらに、2021年度には1,100トンを削減しました。

また、上尾工場に隣接するトレーニングセンターでは、2022年9月から使用する電気をすべてCO₂排出ゼロの電気契約に変更しました。

工場照明のLED化

上尾工場では、2017年度より寿命を迎えた照明器具から順次LED化を進めています。2021年度は約2,500灯をLED化しました。同時に配列の見直しにより、蛍光灯など旧来の照明器具約200灯を撤去しました。

コンプレッサーの更新

2021年12月に上尾工場のコンプレッサー1基を更新し、運転の効率化を行いました。

太陽光パネルの設置

タイのバンコク工場では、2022年6月に工場建屋の屋根に太陽光発電パネルを設置しました。これによって同工場における電力使用量の約25%を再生可能エネルギーでカバーすることが可能になり、年間の発電量は1,477MWh、約700トンのCO₂排出を削減する計画です。



遮熱対策によるエネルギー削減

2022年4月に、国内4カ所の部品センターのなかで最も規模の大きい群馬部品センターにおいて屋根と外壁の遮熱塗装を実施しました。これにより、夏は屋内の気温が従来に比べて約7.5℃低くなり、30℃以下を維持できるようになるなど、空調設備の使用を大幅に削減しています。



よりスマートな物流のために

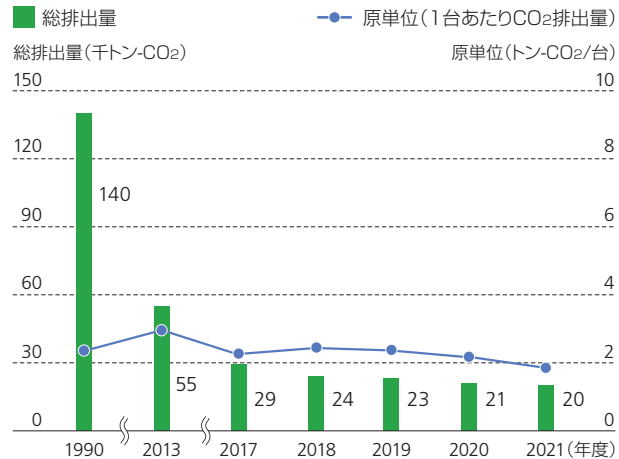
よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

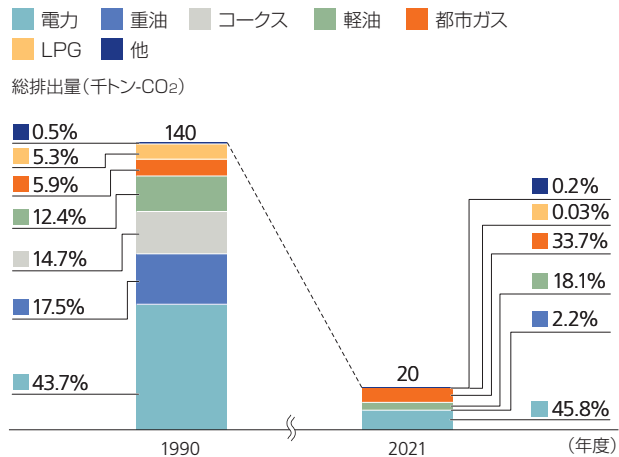
企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

CO₂総排出量



エネルギー別CO₂排出量



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(2017年度まで他工場のデータを含む)

製品ライフサイクルでのCO₂排出量の削減

国土交通省によると、全産業に占める営業用トラックからのCO₂排出量の割合は約7%と算出される一方、政府のグリーン成長戦略に基づきさらなる削減が求められています。

UDトラックスでは、製品の原材料採取から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全体を通じてCO₂排出量の評価と削減に取り組んでいます。

LCA(ライフサイクルアセスメント)

2021年に発足した一般社団法人日本自動車工業会のLCA分科会のメンバーとして、自動車業界におけるLCA評価手法(計算手法など)のガイドライン策定の検討に参加しています。

また社内でも組織横断的なメンバーで構成する「LCAワーキンググループ」を立ち上げ定期的に会議を開き、現状の確認・共有やバウンダリーの特定、数値の集計・解析、課題の提起・解決などを行っています。

ライフサイクル各段階での主なCO₂排出量削減対策

● 開発・設計

製品ライフサイクルのなかで多くのCO₂を排出するのはお客さままでの使用段階であるため、その削減につながる先進技術の開発に注力しています。

▶ 燃料消費を抑制する技術の開発

トラックの燃料消費は、運送事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、地球温暖化に及ぼす影響が

大きいCO₂排出の主な要因ともなります。

そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最重要課題の一つと位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では2025年度を目標年度とする新たな重量車燃費基準が2019年に施行され、従来の平成27(2015)年度重量車燃費基準と比較して約13.4%の基準強化がされることになりました。UDトラックスでは、この新基準を満たした11リットルエンジン搭載の大型トラック「クオン」を目標年度に先行して2022年7月に発売しました。

関連項目 大型トラック「クオン」の環境性能の強化(P11参照)



燃費改善に貢献するクオンのエンジン

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

大型トラック「クオン」に採用している主な技術

車両	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃費コーチ(省燃費運転をガイド) ● フォアトラック(道路勾配を記憶し先読み制御) ● 空気抵抗の低減(エアダム一体型フロントバンパー、新デザインの導風板など)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 新形状ピストン燃焼室 ● 多段式燃料噴射システム ● 電子制御可変式オイルポンプ ● 省燃費エンジンオイル
駆動系	<ul style="list-style-type: none"> ● 低床車の直結段ミッション ● ECO+モード

▶ 次世代技術の開発

UDトラックスは、2018年に発表した次世代技術ロードマップ「Fujin & Raijin(風神雷神)——ビジョン2030」で「2030年までに電動車を量産化する」という目標を掲げ、このロードマップに則った製品開発を推進しています。

具体的には、主にハイブリッド自動車(HEV)、バッテリー電気自動車(BEV)、燃料電池自動車(FCEV)などの電動車について研究しています。同時に、事業環境や各国・地域の環境規制の変化に対処しうる道筋を備えるため、電動化だけでなく脱炭素燃料を使用する内燃機関の研究など、脱炭素化に向けた多様なソリューションの検討を進めています。

● 物流

サプライヤーから上尾、タイ、南アフリカの生産拠点への物流や、完成車やアフターマーケット部品の輸送におけるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2021年にボルボ・グループを離れたことに伴い、UDトラックスとして独自の物流ネットワークの構築が必要となりました。サプライヤーの倉庫からの輸送距離や輸送方法の見直し、貨物量による輸送の最適化などについて検討を行っています。

● 販売・アフターマーケット

省燃費運転につながる知識と技術の習得を支援する「エコドライブ講習会」を全国各地のトラックドライバーを対象に継続的に実施しています。

関連項目 エコドライブ講習会／安全運転講習会(P15参照)

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

廃棄物削減

廃棄物削減への取り組み

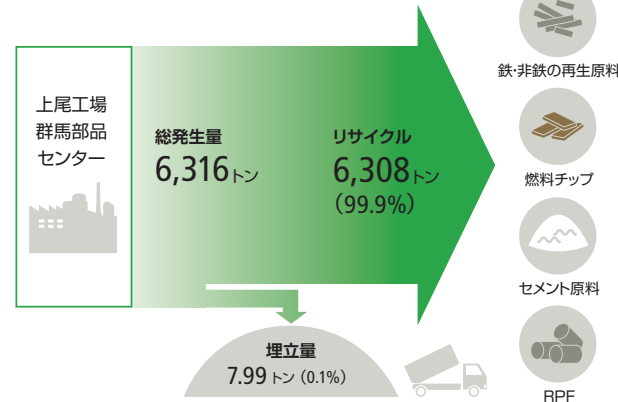
製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年度から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を全ディーラー拠点に導入しています。各拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。また、ディーラーへ発送するサービスパーツの梱包容器のリターナブル化を進め、各ディーラー拠点に再利用を促すとともに、部品梱包資材の簡素化による廃棄物削減の取り組みもあわせて進めています。

開発段階においては、3分割バンパーや、レンズとLEDユニットが単体交換可能な易解体性ヘッドランプ、リサイクル材使用フェンダーなど、解体のしやすさや資源の有効利用を考慮した設計を行っています。

生産段階では、廃棄物最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでおり、リサイクル率も99%以上を維持しています。

UDトラックスでは、こうした廃棄物管理体制の強化を目的に、2015年4月から廃棄物処理の専門会社とコンサルタント契約を締結しています。信頼性の高い処理会社の選定や行政への届出、帳票(マニフェスト)管理、処分量集計など、廃棄物管理に関わるコンプライアンスの徹底を図っています。

廃棄物処理状況(2021年度)



自動車リサイクル法に基づく取り組み

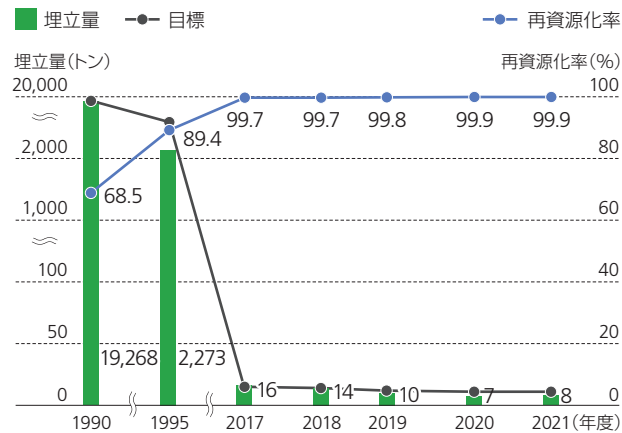
日本で2005年に施行された自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)を遵守し、使用済み自動車から発生する指定3品目(自動車シュレッダーダスト(ASR)、エアバッグ類、フロン類)を回収して、適正にリサイクル処理しています。

[Web]

自動車リサイクル料金および再資源化の実績

<https://www.udtrucks.com/japan/about-ud-trucks/automobile-recycle-law>

廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(「廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率」は2017年度まで他工場のデータを含む)

※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

水資源・大気保全

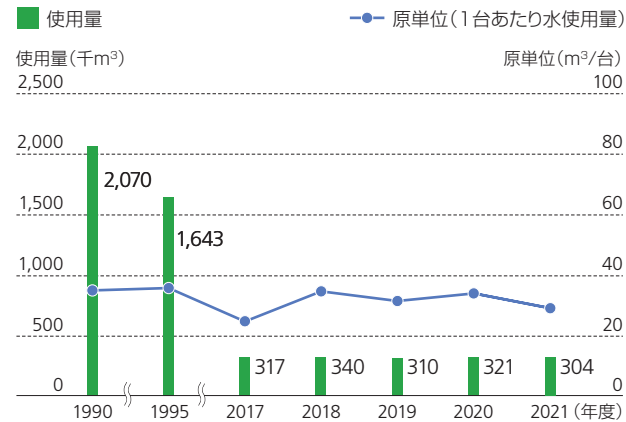
水使用量の削減と排水・排気の適正管理

UDトラックスは、水使用量の削減と、排水や排気の適正管理に継続的に取り組んでいます。

具体的には、設備の点検や清掃、漏水調査、漏水発見時の速やかな補修などによって水使用量の削減に努めています。また、ISO14001の地下水節水活動において全社の目標値を設定し、進捗管理を行っています。

排水・排気については、法規制値よりも厳しい独自の運用管理値を設定し、設備の清掃やメンテナンスを計画的かつ確実に実施することで、周辺水域と大気汚染防止を徹底しています。

水使用量



集計範囲

上尾工場と群馬部品センター(2017年度まで他工場のデータを含む)

環境測定データ(上尾工場)

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量	m³/日	—	8,026	0	893
pH	—	5.8~8.6	7.9	6.9	7.4	
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	25 (20)	4.6	1.4	2.3	
COD(化学的酸素要求量)	mg/L	160 (120)	7.5	2.6	4.4	
SS(懸濁物質)	mg/L	60 (50)	<5	<5	<5	
N-Hex(鉱油)	mg/L	5	<2.5	<2.5	<2.5	
リン	mg/L	16 (8)	0.6	<0.1	0.2	
窒素	mg/L	120 (60)	2.9	<1	1.6	
亜鉛	mg/L	2	0.2	<0.1	0.1	
フッ素および化合物	mg/L	8	<0.8	<0.8	<0.8	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	乾燥炉1		NOx(窒素酸化物)	ppm	230	16	7
ばいじん			g/m³N	0.2	0.002	<0.001	0.001

環境測定データ(群馬部品センター)

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	排水量	m³/日	—	15.8	0	4.0
pH	—	5.8~8.6	7.2	6.3	6.7	
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	80	7.1	1.3	3.4	
SS(懸濁物質)	mg/L	20	4.0	1.0	2.3	
N-Hex(鉱油)	mg/L	1	<0.5	<0.5	<0.5	

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
	ボイラー重油 No.1、2、3		NOx(窒素酸化物)	ppm	180	66	57
ばいじん			g/m³N	0.2	<0.001	<0.002	<0.001

環境データ測定期間:2021年4月~2022年3月 ND:定量下限以下 規制値の()内は日間平均

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

化学物質の管理

製品含有化学物質の管理

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

化学物質管理の取り組み

● 開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS※1へ情報を登録

● 生産段階

- PRTR制度※2に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進
- 法律の改正に対しても適切に対応

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

化学物質【PRTRデータ】(上尾工場、2021年度)

単位:kg/年

政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量	除去処理量	リサイクル量	消費量(製品)
			大気	水域	土壌	廃棄物			
53	エチルベンゼン	16,306	6,619	0	0	0	2,071	7,568	0
80	キシレン	29,540	9,378	0	0	0	2,237	17,659	0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	2,515	1,474	0	0	0	706	0	0
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	3,909	542	0	0	0	84	3,223	0
300	トルエン	6,661	4,930	0	0	0	1,209	102	0

PCB保管状況(上尾工場、2021年度)

	高濃度	低濃度	合計
安定器	19,330kg	0kg	19,330kg
トランス	0kg	140kg	140kg
遮断機	0kg	120kg	120kg
絶縁油	0kg	27kg	27kg
汚染物(ウエスなど)	0kg	213kg	213kg
合計	19,330kg	500kg	19,830kg

※法律に定められた期限までに処分を行う(高濃度:2023年3月31日、低濃度:2027年3月31日)。

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含む。

※重量は一部推定を含む。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

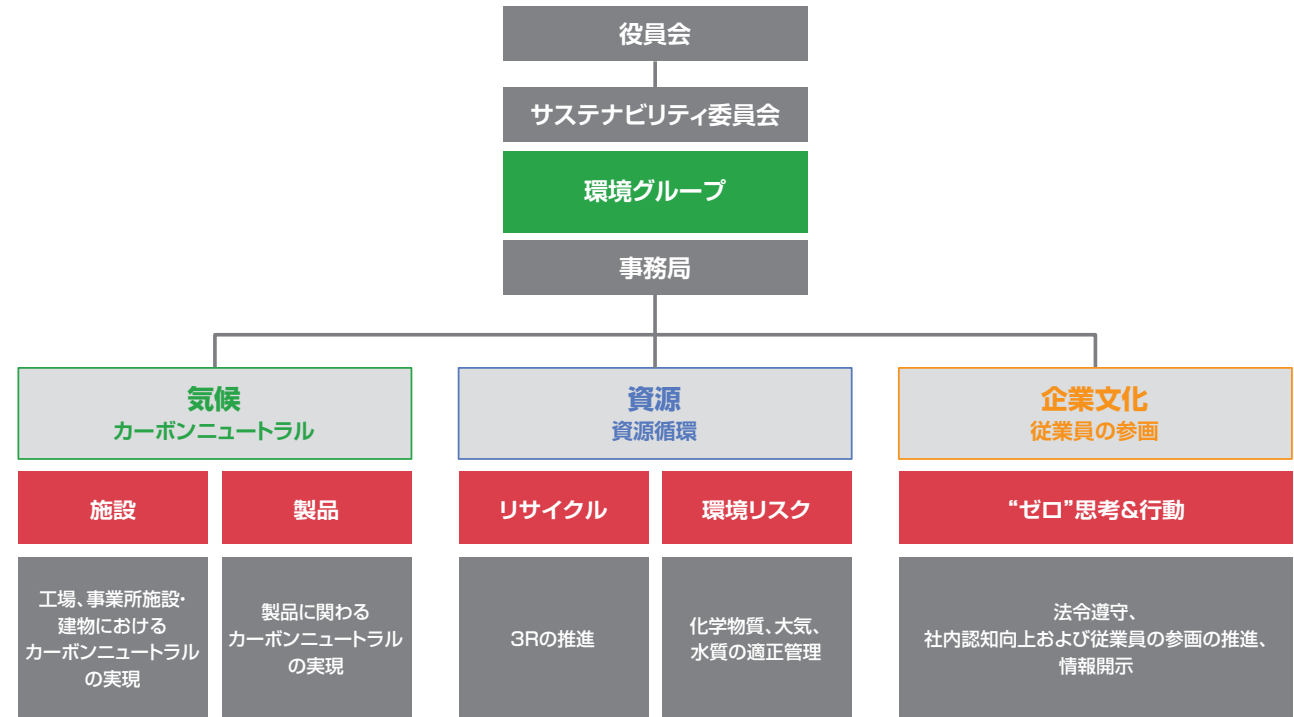
環境マネジメントシステム

環境方針

One UDとしての環境活動の推進は、物流ソリューションで社会の繁栄を推進し、「Better Life」に貢献するための私たちの使命の重要な役割です。次の原則に基づき環境対策の推進に取り組みます。

- 製品ライフサイクル全体での環境に対する影響を継続的に削減し、持続可能性とカスタマーサクセスを実現します。
- 従業員一人ひとりが、事業を展開するすべての地域で、環境に配慮する責任を果たし、我々のコアバリューに基づいた行動により信頼を構築します。
- One UDとして、法規制や環境負荷に対する意識を高め、循環型経済の実現とともに企業価値向上の活動に取り組みます。

環境マネジメント体制



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

ISO14001 認証の取得

UDトラックスは、ISO14001の認証を取得しています。1998年度に上尾工場、2002年度には開発部門でそれぞれ取得しました。その後も順次取得範囲を広げ、2018年度にはISO14001:2015年改訂規格への移行を完了しています。また、タイのバンコク工場、南アフリカのプレトリア工場などでも取得しています。

現在は、全社で環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。



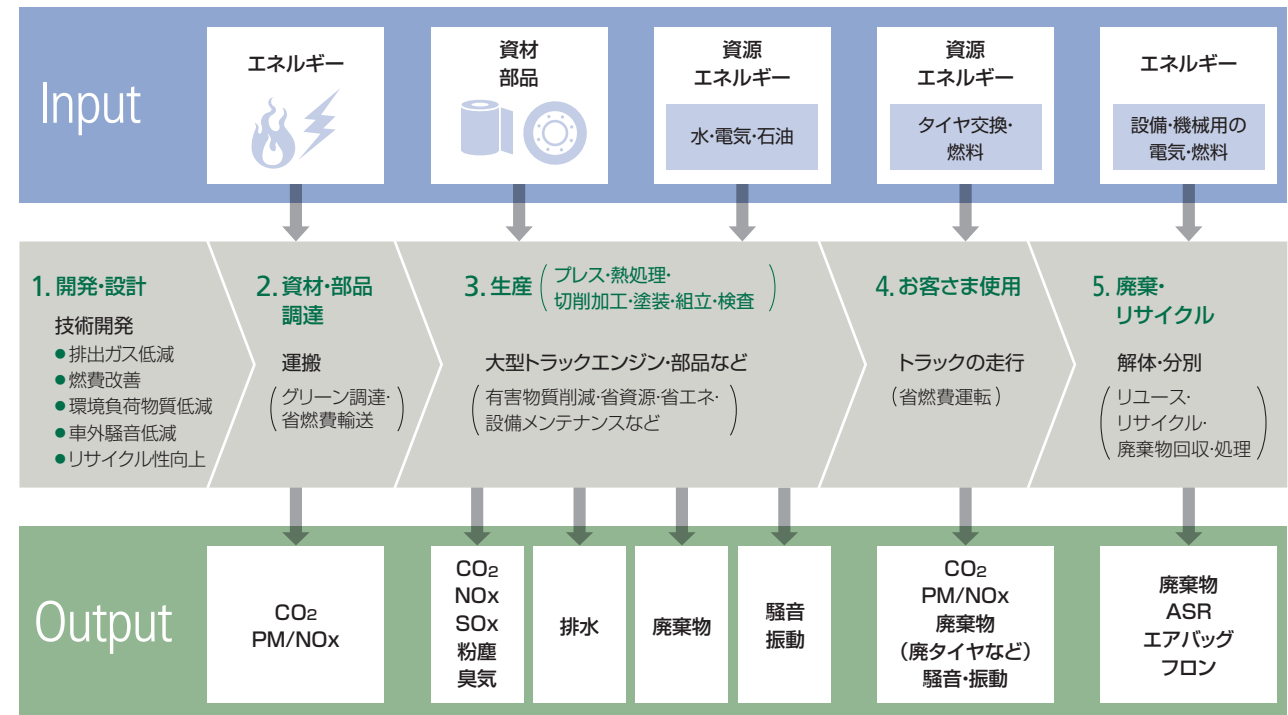
環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委

員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また同様に、外部機関による審査も毎年実施し、ISOの認証を継続しています。

マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO₂と排出ガス（PM・NO_x）です。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

より良い職場・地域のために 働きがいのある職場・地域貢献

UDトラックスでは、従業員の多様性を尊重すると共に、従業員との対話、教育機会を通じて個々人の能力を最大限に発揮できる職場づくりに注力しています。また、ワークライフバランスに配慮したリモート勤務を拡充するなどして従業員の安全・健康の確保に尽力しています。

さらに、国内外の事業所では当社ならではの知見を活かして、地域の人々と共に交通安全教育、災害支援などに関わる取り組みを推進しています。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

多様性の尊重と個人が能力を最大限に発揮できる環境づくり

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)は、UDトラックスが唯一無二の企業として評価され、将来にわたって持続的に成長していくために不可欠であると考えています。多様性に富んだ従業員一人ひとりの能力を尊重するとともに、働きがいのある職場づくりを推進し、すべての従業員が職場の改善に参画する文化を育むことをめざしています。そのために、年齢、民族、性別、性的指向、宗教などに起因するあらゆる差別について全従業員の意識を高め、公正で包括的な職場環境を維持することに取り組んでいます。

D&Iの浸透のために、2014年から毎年社内啓発イベント「D&Iウィーク」を開催しています。コロナ禍の2021年は、女性役員と従業員のバーチャルパネルディスカッションや各国からのライブセッションをオンラインで国内外の全従業員に配信しました。

性別にかかわらず包括的な職場づくり

ジェンダーエクイティと女性のエンパワーメントを促進するために、社内のネットワークコミュニティが中心となってイベントや対話集会、講演会などを開催し、女性従業員をサポートしています。

また、2022年の「D&Iウィーク」では「LGBTQ+」に関するオンラインパネルディスカッションを実施し、522名の従業員が参加しました。

さらに、社内規則をより包括性の高いものとするために、性別にかかわらず用語で改定しました。



障がい者雇用の促進

UDトラックスは、心身に障がいがある人にも公平に働く場を提供するため、従業員一人ひとりの理解を深めることを目的とした研修やセミナーを開催しています。2020年と2021年の2年間で、延べ690名の従業員が「障がい者を包括する職場環境づくり」など、障がい者雇用をテーマに実施したオンラインセミナーに参加しています。

2022年5月には、本社で聴力に障がいがある従業員が講師を務める社内手話教室を開催しました。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

ジョブ型雇用の推進

働き方に対する価値観の多様化に対応し、D&Iを促進することを目的として、2015年に日本型の雇用慣行である年功序列を廃止し、ジョブ型雇用を導入しています。同時に、新卒採用も職種別による採用を取り入れています。こうした取り組みによって、従業員本人の能力やキャリア設

計と実際の業務のミスマッチを低減しています。

また、誰に対しても公平な就業機会を提供するため、2011年に透明性の高い社内公募制度を導入し、所属する地域、職場、自らの属性にかかわらず、個人が望むキャリアを実現できる環境を提供しています。

対話による成果・成長・信頼の醸成

UDトラックスでは、上司やチームメンバーとの継続的な対話を促進しています。業務の優先度や進捗確認、改善提案や能力開発などを話し合い、フィードバックを得ることを通じて、業務の成果だけでなく、個人の成長や同僚との信頼関係の構築にもつなげています。

また、社内コミュニケーションの円滑化にも取り組んでいます。コロナ禍においては、対話集会をオンライン形式で継続実施するとともに、全従業員がいつでもどこでも必要な情報を閲覧・発信・共有できる大規模なデジタルプラットフォームを導入し、会社のPCのほかスマートフォン、タブレットでも業務システムなどにアクセスできるようにしています。

従業員データ(2022年4月1日現在)

国内

●従業員数

6,146名

男性

5,675名

女性

471名

●管理職者数

男性

983名

女性

60名

●採用者数

新卒

208名

キャリア

195名

(2021年1月1日～12月31日までの採用者数)

●国籍数

31カ国

アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セネガル、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モロッコ、モンゴル、ロシア

海外

●従業員数

1,976名

男性

1,474名

女性

502名

●国籍数

41カ国

アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、イラン、インド、インドネシア、ウクライナ、ウズベキスタン、エジプト、オーストラリア、オランダ、カナダ、韓国、コロンビア、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セネガル、タイ、中国、ドイツ、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ペルー、ベルギー、ボスニア、ポルトガル、マレーシア、南アフリカ、ミャンマー、モロッコ、モンゴル、UAE、ロシア

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

継続的な学びと成長の支援

現在の業務だけでなく、将来重要となる知識や能力の開発・向上に継続的に取り組んでいます。UDトラックスでは、「リーダーシップ」「ビジネス感覚」「新技術」「起業家精神」の4つを重視しており、幅広い研修プログラムや管理システムの導入、トレーニング施設の充実などを進めるとともに、従業員の積極的な学びや自己開発を支援しています。

さまざまなリーダーシップ開発プログラム

リーダーの育成を目的として、対象者の能力段階や勤務年数に応じたプログラムや、リーダーの役割ごとに設計したプログラムなどさまざまなプログラムを実施しています。グローバルで展開している自己管理学習メソッドに基づいて自分自身を探究するプログラムには、日本、中国、インド、タイ、シンガポール、アラブ首長国連邦、南アフリカの従業員が参加しています。

従業員の健康と安全

新型コロナウイルス感染防止対策

従業員の健康と安全は、UDトラックスの最優先事項の一つです。新型コロナウイルス感染症に対しても、発生以降、従業員の健康と安全を守るため、さまざまな対策を講じています。

感染防止対策として、健康観察、マスクの着用、手指消毒の励行、密閉・密集・密接の回避を徹底するために、「新しい行動様式ガイドライン」「新型コロナウイルス対策ガイドライン」を策定しています。これらに基づき、入社時の検温、オフィスや食堂におけるマスク着用の徹底、座席間隔の拡大、クリアパネルの設置、定期的なドアノブのアルコール消毒、会議室の人数制限などの対策を行っています。また、従来から実施している在宅勤務をさらに活用することで、従業員が安心して勤務できる環境を整えています。

あわせて、2021年7月からは本社で新型コロナワクチンの職域接種を実施し、本社と関東エリアに勤務する従業員のうち希望者が接種しました。新型コロナワクチン接種のサポートは日本だけでなく、南アフリカ、タイ、インド、中国などでも実施しています。

ストレスチェックテスト

メンタルヘルス不調の予防のために、従業員のストレスチェックテストを実施しています。結果によって、医師やカウンセラーとの面談を促しているほか、医師からの助言に基づき、業務内容の見直しなどを行っています。

フレキシブルな就労環境

従業員が仕事とプライベートを効率的に両立できるように、各種制度やポリシーなどを整え、ワークライフバランスの充実に支援しています。

また、時間外労働を削減し、最終的にはゼロにするための継続的な取り組みを行っています。

個別の働き方を支援する主な制度・ポリシーなど

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- 取得制限を設けないテレワーク制度
- コアタイムを設けないフレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー（ハラスメント防止策）、eラーニング
- 定時退社促進活動

産休・育休・介護休職取得者数(2021年1月1日～12月31日)

	取得者数		取得後の状況など
産休取得者	女性	22名	終了後は全員が育休を取得
育休取得者	男性	7名	退職2名
	女性	22名	退職3名
介護休職取得者		0名	

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

地域社会への貢献

小学生向け交通安全教室

UDトラックスが本社を置く埼玉県は、事業用貨物自動車(軽貨物を除く)による死亡交通事故件数が全国ワースト上位で推移しており、交通事故の撲滅が大きな課題の一つとなっています。交通事故を防ぐためには、自動車側の安全性能の向上だけでなく、歩行者の交通安全意識を高める取り組みも不可欠です。

当社は、交通事故の防止はトラックメーカーの責務と考え、上尾市内の小学生を対象に交通安全教室を2016年から毎年開催しています。実施にあたっては従業員が運営スタッフとして参加するなど当社の持つ知見や設備、人材などを最大限活用するとともに、学習効果を最大化するため同市教育委員会から実施方法や内容、対象学年などについてアドバイスをいただきながら独自のプログラムを開発しています。最大の特徴は「体験」で、児童は大型トラックの実車を用いて死角や内輪差を学びます。また、プログラムの最後には運転席に座り、ドライバーの視界を確認します。引率の先生からは、「実際に自分の目で確かめたり体験したりできるので、子どもたちの安全への意識が高まりました」「運転席に座れたことは貴重な経験になりました」などの感想をいただいています。



トラックを活用した災害支援プログラム

地球温暖化に伴う気候変動によって、水害や土砂災害、洪水被害などの自然災害の頻発化・激甚化が懸念されています。UDトラックスが本社を置く埼玉県上尾市でも、2019年の台風19号では荒川が氾濫し、約1,000名の市民が避難を余儀なくされるなど大きな被害を経験しました。災害救助や復興支援において当社の敷地や製品、人的資本が力になるとの考えからスタートしたものです。

災害時の避難所では、プライバシーの確保が困難な限られた空間での共同生活が心身への負担となることが指摘されています。そこで、小型トラック「カゼット」の荷台部分

をプライバシー空間として活用できる災害支援車(バンモデル)を製作。オムツ替え、授乳といったベビーケアや、障がい者や高齢者の身体ケアなどの際に利用可能な2つの個室を設置しており、エアコンや冷蔵庫、水タンク式シンクなども装備しています。また、ソーラーパネルとディーゼル発電機、大容量蓄電池で電気を確保し、通信に欠かせない携帯電話の充電やモバイルバッテリーの貸し出しにも対応します。さらに、これとは別に、被災現場での土のうや被災家財の運搬用途に特化した平ボディモデルも用意しました。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

上尾シティハーフマラソンへの協賛

毎年秋に開催される「上尾シティハーフマラソン」は、上尾市を代表するイベントとして長年市民から親しまれ、毎回7,000名を超えるランナーが参加しています。

UDトラックスは、地元企業として2013年からこのマラソン大会に協賛し、その成功を応援しています。コロナ禍のため3年ぶりの開催となった2022年11月の大会では、子どもランナーたちへのオリジナルタンブラーやハート形サブレのプレゼントに加えて、当社のブースではクラシックポストカードやミニチュアトラックの組み立てキットを配布しました。また、途中リタイアしたランナーの収容車として、当社所有のバス3台を貸し出しました。この2022年大会には70名を超える従業員もランナーとして参加しました。



地域のスポーツ振興の支援

上尾市は、スポーツを通じた地域の活性化と市民のQOL（生活の質）の向上をめざしてスポーツ推進計画を策定し、住民や地域団体、企業などに協働を呼び掛けています。「Better Life」をパーパスに掲げるUDトラックスは、人々のより良い生活の実現に貢献するという理念が合致することから、上尾市民球場のネーミング・ライツ（命名権）を取得し、市のスポーツ推進計画を支援しています。

上尾市民球場は、市民だけでなく高校野球埼玉県大会やプロ野球のイースタン・リーグの公式戦の会場などとして幅広く市民に親しまれています。当社では、ネーミング・ライツの取得を機に、行政と連携しながら地域の活性化につながる活用方法を検討しています。



次世代人材の育成

UDトラックスは、上智大学との産学連携として「アカデミックパートナープログラム」を実施しています。

このプログラムは、学生が当社の事業活動を知ることを通じて、物流業界や多国籍企業について知識を深め、将来の職業選択の一助となることを目的としています。また同時に、物流が社会を維持するために不可欠なインフラであることを理解し、社会に対する視野を広げる機会になることも期待しています。

毎年秋学期に行われる14回の授業では、当社のさまざまな国籍の社員が講師となって、製品開発や物流、調達、生産、販売、法務、財務など各回のテーマごとに講義しています。2020年、2021年は、新型コロナ感染防止対策としてオンライン形式が中心にはなったものの、2022年は本来の対面形式で実施しました。

また講義のほかに、夏のインターンシップや奨学金制度による学生への支援も行っています。

2014年にスタートしたプログラムは同大学からも高い評価をいただき、3年ごとの更新を重ね継続的な取り組みとなっています。



よりスマートな物流のために


よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

企業のより持続可能な成長のために



UDトラックスは、「スマートロジスティクス」「環境」「人材・職場／地域社会」のサステナビリティへの取り組みを核に、業務効率や生産性の向上、デジタル化を通じたビジネストランスフォーメーション、コーポレートガバナンスの強化などを通じて持続的に成長することで、業界最高水準の業績をめざします。そして、得られた利益によって物流業界の価値創出に貢献すると共に、UDトラックスの成長のためにさまざまなステークホルダーの未来に再投資することで、事業の持続可能性をさらに高めていきます。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

デジタル化を通じた
ビジネストランスフォーメーション

事業活動全体でDXを推進

UDトラックスは、デジタルトランスフォーメーション(DX)はITの変革にとどまらず、業務変革(ビジネストランスフォーメーション)の一部であり、企業文化の変革をめざすものであると位置づけています。そして、物流の高度化や、業務効率や生産性の向上、より良い職場環境の実現には、データを基盤としたDXが不可欠であると考えています。

UDトラックスでは、先進的なITツールを導入するとともに、ビッグデータの蓄積と活用に注力しています。生産計画や品質管理から販売、サービスに至るまで、多岐にわたる情報を使いやすい形で一元的に整理・分析し、経営に反映しています。また、それらのデータを従業員にも公開することで、ビジネスに関わるアイデアの創出や、経営層と従業員のコミュニケーションの活性化にもつながっています。

同時にDXの推進によってリモートワーク体制を整備することで、世界各地からの人材獲得が可能になり、人材の多様性や社員の能力向上の面でも成果が生まれています。

エンジニアリングチェーンと
サプライチェーンのデータ連携

UDトラックスは、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンのデータ連携を加速する新たなシステムを構築しています。製品に関するデータの活用や情報共有を進めることで、さまざまなリスクに対して強靱なサプライチェーンを構築するとともに、モノづくりの中核であるエンジニアリング能力の向上に取り組んでいます。

エンジニアリングチェーンは、製品の品質とコストの約8割を決定すると言われています。そこで、当社は開発・設計段階の効率と生産性を高めるため、開発部門が3D CADで構成したデータ情報と生産部門で使用する部品表などのデータを統合したデジタルモデルを構築。双方がスムーズに連携することにより、開発・設計段階における問題点の早期発見、品質向上、後工程でのやり直しによるムダの排除などを可能にしています。また、生産部門と営業部門にお

いても、生産計画や品質管理に関する情報、営業社員の商談の進捗状況などをビッグデータとして一元管理するプラットフォームを整備し、両部門間の製品データやコミュニケーションの連携を実現しています。

今後は、経営環境の不確実性が高まるなか、想定外の変化が発生した場合の対応力の強化を目的に、組織・企業間におけるデータ共有インフラを整備する計画です。新たに工場IoTプラットフォームと、開発、生産、販売、アフターマーケット領域におけるAR(拡張現実)ソリューションを採用し、デジタルデータの利用領域を拡大します。将来的には、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンのシームレスなデータ連携と双方向のコミュニケーション環境をサプライヤーやお客さまなどにも展開することで、強靱なサプライチェーンの構築とお客さま起点でのビジネスモデルの変革にもつながる新たな価値創造をめざします。



よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

アフターマーケット業務のデジタル化

UDトラックスは、アフターマーケット業務の効率化と生産性の向上に取り組んでいます。この一環としてCRMとERPを統合した新システム「UDダイナミクス」を開発し、2022年4月から全国のカスタマーセンターに順次導入しています。

このUDダイナミクスを活用することで、アフターマーケット業務のワークフロー変革とデジタル化をめざしています。また同時に、待機時間の低減や生産性の向上、整備キャパシティの改善、リアルタイム情報の把握、路上での故障に対するロードサポートの効率化など、お客さまの生産性と稼働率の向上を図っています。また今後、UDダイナミクスを基盤にアフターマーケットビジネス全体をカバーする総合プラットフォームを構築し、車両の状態や各サービスセンターの稼働状況をリアルタイムで把握できるようにするなど、データドリブンなお客さま対応を促進することで、サービス品質のさらなる改善とお客さま満足度の向上につなげていきます。

人事関連業務のデジタル化

多様な個性を尊重することで、固定観念にとらわれない革新的で柔軟なアイデアを創出するため、社内コミュニケーションのデジタル化やアドレスフリー化を進めています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって働く環境が大きく変化し、書類による申請対応など従来型の労務管理が難しくなっていることから、デジタル化を軸とした業務環境の改善も図っています。

2022年6月には、クラウド型の人事労務ソリューションを採用し、人事関連業務のDXに取り組んでいます。これによって労務管理業務や給与計算業務などの管理・オペレーションをデジタル化し、多様化する働き方に対応する職場環境の整備や戦略的な人的資本管理を加速させています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

コーポレートガバンスの強化

経営・業務執行体制



代表取締役会長
袴田 直人



代表取締役社長
国内販売部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
丸山 浩二



取締役
國房 太郎



監査役
新井 義直



最高財務責任者(CFO)
人事、法務・コンプライアンス部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
饗場 哲也



製品戦略、
ブランド・コミュニケーション部門
シニアバイスプレジデント
(兼任)
伊藤 公一



生産改善部門
シニアバイスプレジデント
岡嶋 剛也



開発部門
シニアバイスプレジデント
ナカノ ダグラス



調達部門
シニアバイスプレジデント
林 修一



物流部門
シニアバイスプレジデント
中矢 利久



生産部門
シニアバイスプレジデント
笹岡 博



海外販売部門
シニアバイスプレジデント
ミシェル ジャック



デジタルソリューション・
IT部門
総括
何 慶輝



品質部門
総括
プロシャルスキ ルイス

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

サステナビリティ推進体制

会社全体でサステナビリティの取り組みを推進していくために、2021年12月、役員会のもとに「サステナビリティ委員会」を設置しました。同委員会は、UDトラックスのサステナビリティの重点領域（P4参照）にESGの観点から統合した「環境グループ」「社会グループ」「ガバナンスグループ」の3つのグループによって構成されています。

各グループでの組織横断的な議論や提案は4半期ごとに役員会に報告し、会社経営に反映しています。また、主要課題について具体的に検討・対応するために、各グループの傘下に分科会を設置しており、現状の把握や目標の設定、活動計画の策定、進捗管理などを行っています。



UDトラックス行動規範

法令を遵守し倫理的にビジネスを遂行するために、すべての従業員が実践すべき基本原則や行動を「UDトラックス行動規範」に定めています。



UDトラックス行動規範の重要原則

● お互いを尊重する

相互尊重／差別をしない／安全で健康的な職場／環境コンプライアンス／結社の自由／労働時間と報酬／現代の奴隷制と児童労働

● 公正かつ合法的にビジネスを獲得する

製品に関するコンプライアンス／公正な競争／贈答品、接待などに関する腐敗の防止／貿易に関するコンプライアンス（輸出入）／マネーロンダリング防止

● 事業活動と個人的な利害を切り分ける

利害の衝突／政治活動／インサイダー取引

● 企業情報と資産を保護

機密情報／知的財産／物理的資産と金融資産／個人情報保護

● 透明性、そして責任感を持ってやり取りを行う

経理と報告

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

コンプライアンス

コンプライアンスは、UDトラックスの企業文化と価値観を形づくる重要な要素であり、企業には誠実かつ倫理的で責任ある行動が求められているという認識のもと、すべての従業員を対象に啓発活動を行っています。2020年度には、公正かつ合法的にビジネスを獲得することを目的に、国内営業部門においてコンプライアンス推進プロジェクトをスタートしました。従業員一人ひとりが高い倫理観をもって自ら正しい行動を選択できるよう、さまざまな改善活動を推進しています。

また、2021年4月のいすゞグループへの移行に伴い、いすゞ自動車株式会社のコンプライアンス体制を参考に当社のポリシーやガイドラインを改訂し、競争法、贈収賄、輸出入管理、個人情報保護など重要なコンプライアンスリスクへの対応を強化しています。あわせて、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適時・適切に対応できるよう内部通報制度を設けるとともに、Webによる通報を可能にするなど、利用しやすい仕組みの整備にも注力しています。

さらに、2021年10月には「コンプライアンス推進部会」を立ち上げ、2022年1月に従業員を対象としたコンプライアンス意識調査を実施し、コンプライアンスに対する意識の向上を図っています。

下請法の遵守

UDトラックスは、サプライヤーとの健全な関係を維持するために、下請代金支払遅延等防止法(下請法)の遵守に努

め、下請法の適用対象、遵守事項を確実に運用できるよう社内のルール化などを進めています。

その一環として、社内教育や支払方法の変更、対象部門に対する業務監査を定期的実施しています。また、サプライヤーとの中立的な相談窓口として「納入事業者様相談窓口」を法務部門内に設け、コンプライアンスに関するサプライヤー各社からの相談を受け付けています。

ERM (Enterprise Risk Management)

全社横断的にリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。経営上・事業遂行上のリスクを定期的に特定・評価するとともに、それらを適切に管理し、リスク発生の防止に努めています。また、こうした取り組みをマネジメントに随時報告することで、常にリスク管理を徹底しています。

リスク管理の対象は、従業員やビジターを対象とした安全の確保、事業に関する秘密情報や資産の保護、自然災害や火災など緊急事態への対応、災害復旧の支援など多岐にわたります。

起こりうるリスクを想定し、未然に防ぐことによって、より安心・安全な事業環境の実現に取り組んでいます。

情報セキュリティ

UDトラックスの「セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの確保に努めています。また、このポリシーを反映した情報セキュリティ・ガバナンスの構築を進めています。

具体的には、災害によるシステム停止を防止するために、本社と耐震性の高いデータセンターの2拠点で電子情報を運用・管理するとともに、外部攻撃などによる電子情報の漏洩防止対策を強化しています。また、全国のディーラーを対象に情報セキュリティの強化に向けた教育を定期的に実施しています。

これらとともに、「プライバシーポリシー」に従い、個人情報の適正な管理・保護を徹底しています。

よりスマートな物流のために

よりクリーンな地球のために

より良い職場・地域のために

企業のより持続可能な成長のために

サステナビリティ活動報告

サプライヤーとのパートナーシップ

パートナーシップの強化

社会の大きな変化や加速化する技術革新のなかにおいても、お客さまのビジネスニーズに応える先進的で優れた品質の製品とサービスを提供することが重要です。そして、バリューチェーン全体を通じて社会の持続可能性の実現に貢献することは、UDトラックスのパーパスである「Better Life」の理念にもつながります。

こうした認識のもと、UDトラックスは、持続可能性を品質や性能、納期、コストなどと同様に調達プロセスにおける主要な基準の一つと位置づけています。また、サプライヤー各社と当社の考え方や行動指針などを共有し、より良いパートナー関係の構築をめざしています。そのために、サプライヤー各社にお願いしている取り組みを「UDトラックスサプライヤー行動規範」として開示するとともに、サプライチェーン全体のサステナビリティ課題への取り組みを強化しています。

2021年に発足したサステナビリティ委員会では、環境活動や取引慣行の見直し、人権問題を含むサプライチェーンの健全化など、自社およびサプライヤーにとっての重要課題を抽出し、対応を進めています。

サプライヤーへの要請事項

●UDトラックスサプライヤー行動規範の遵守

人権や環境対応など、当社のサステナビリティ基準への準拠を要請

●グリーン商品の製造

サプライヤーの取り組みをSAQ4.0※で確認

●第三者機関によるサステナビリティ認証の取得

●使用禁止原材料などの不使用

国際的な原材料データベースに基づき使用禁止原材料などの有無を確認

●CO₂排出量の把握と削減

※自動車業界のサプライヤーを対象とした持続可能性に関する自己評価の仕組み。

紛争鉱物に対する取り組み

UDトラックスは、錫、タンタル、タングステン、金、コバルトといった紛争鉱物を責任ある持続可能な方法で調達するよう努めています。サプライヤーには、サプライヤー行動規範の「第3条 責任ある原材料の調達」に基づき法令の遵守を求めています。また、高リスク地域から紛争鉱物を調達する際は責任ある方法をとるよう要請しています。

UDトラックスについて

UDトラックスのさまざまな情報は、こちらからもご覧いただけます。

・Webサイト <https://www.udtrucks.com/japan>

・Facebook <https://www.facebook.com/UDTrucksJP>

・YouTube <https://www.youtube.com/user/udtrucksvideos>



1935年の創立以来、UDトラックスは日本の商用車メーカーとして、物流の現場に携わってきました。

現在は世界約60の国と地域において、お客さまのニーズに応えるより良いトラックとサービスの提供に取り組んでいます。

会社概要 (2022年4月1日現在)

会社名	UDトラックス株式会社
創立	1935年12月1日
所在地	埼玉県上尾市大字荻丁目1番地
資本金	775億円
従業員数	6,146名
主な事業	国内事業 <ul style="list-style-type: none"> ●大型トラックの開発、製造、輸出、販売 ●中・小型トラックの販売 ●自動車用部品の製造、販売 ●トラック・バスの整備、補修部品などの販売 ●ボルボブランド製品の輸入、販売 海外事業 <ul style="list-style-type: none"> ●新興国向けの大・中・小型トラックの開発、製造、販売 ●自動車用部品の製造、販売 ●トラック・バスの整備、補修部品などの販売
国内拠点	本社・上尾工場、茂木試験場、部品センター（群馬、北海道地区、山陽地区、九州地区）、ボルボ・ペンタオフィス
国内グループ会社	株式会社ニューメック
海外拠点	シンガポールオフィス、タイ工場、UDトラックス・インドア、部品センター（南部アフリカ地域、中東バイ地域）
海外グループ会社	UDトラックス ノースアメリカ、UDトラックス サザンアフリカ

沿革

年代	会社の歩み	製品の歩み
1930	1935 埼玉県川口市に日本デイズル工業(株)を創立	1938 当社初のディーゼルエンジン開発 1939 ディーゼルトラック1号車完成
1940	1942 鐘淵デイズル工業(株)に社名変更 1946 民生産業(株)に社名変更	
1950	1950 民生デイズル工業(株)に社名変更	1955 独自技術による「UDエンジン」誕生 1958 日本初積載量10トン超「6TW型」誕生
1960	1960 日産ディーゼル工業(株)に社名変更 1962 上尾工場の操業開始	
1970		1975 中型トラック「コンドル」誕生
1990		1990 大型トラック「ビッグサム」誕生
2000	2007 ボルボグループに加わる	2004 フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生
2010	2010 UDトラックス(株)に社名変更	2013 新興国向け大型トラック「クエスター」誕生 2014 小型トラック「カゼット」誕生 2017 新型「クオン」「コンドル」発売、新興国向け中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」誕生
2020	2021 いすゞグループに加わる	

取り扱い製品



UD TRUCKS

UDトラックス

大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国向け大型トラック「クエスター」、中型トラック「クローナー」、小型トラック「クーザー」を展開。

V O L V O

ボルボトラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。日本市場における取り扱い製品は、オンロードのボルボFH4x2、6x4トラクター、6x2、6x4リジッド、オフロード（構内専用）のFMX6x4、8x4リジッド。

V O L V O P E N T A

ボルボ ペンタ事業部

ボルボ・ペンタブランドの産業、船用エンジンの輸入と各OEMへの搭載技術支援。日本市場での主力製品はフォークリフトなどに使用される産業用エンジン、レジャーボート用高級船用エンジン。

※UDトラックスはいすゞ自動車株式会社のグループ企業です。いすゞ自動車株式会社について詳しくはWebサイト(<https://www.isuzu.co.jp>)をご覧ください。